

平成21年度奥尻町離島漁業再生支援交付金事業の公表について

町では、平成17年度から「離島漁業再生支援交付金事業」に取り組めました。（平成21年度まで）

この事業は、創意工夫により島の特色を生かした漁場の生産力の向上や良好な海域環境の保全等といった多面的機能を維持増進し、離島漁業の再生を図るための事業です。

町では、昨年度実施した事業内容を次のとおり公表します。

協定対象 漁業世帯数	180世帯	交付金額	24,480千円
漁場の生産力の向上に関する取組状況	平成21年度実施した取組事項		
	取組内容	取組の成果	取組成果の説明
	<ul style="list-style-type: none"> ●ウニ深浅移殖放流 ウニ深浅移殖放流は潜水器を用いて未利用資源となっている深場に生息しているウニを漁場となる浅場へ移殖する取組みです。 	150万個	未利用資源の活用が図られ、今年7月から実施予定のウニ漁での生産性向上が期待されます。（9～10月に実施）
	<ul style="list-style-type: none"> ●ウニ・アワビ資源量調査 ウニ・アワビ資源量調査は、潜水器を用い島の周囲に設定した定点に生息しているウニ・アワビの資源量状況を調査する取組みです。 	延べ 120点	調査の実施により、ウニ・アワビの資源状況が把握できた。また、基礎資料の収集が図られました。（5月と8月に実施）
<ul style="list-style-type: none"> ●アワビ種苗放流 アワビは島の特産品であるが、最近では、異常気象など様々な要因で資源の減少が深刻な状況となっています。このため、種苗放流を計画し過去の放流実績等を踏まえ、効果の高い方法を検討しながら種苗放流を実施しました。 	5万個	高い種苗放流効果を得るため、潜水士による海底での種苗放流を実施したことでアワビ資源の回復と次期アワビ漁での水揚げの増加が期待された。（6月に実施） また、放流効果を検討する際の資料とするため、前年度までの放流箇所において追跡調査を実施し成長率などの状況を確認した。	
集落の創意工夫を生かした取組状況	平成21年度実施した取組事項		
	取組内容	取組の成果	取組成果の説明
<ul style="list-style-type: none"> ●ナマコ増殖試験（中間礁の設置） 近年、ナマコ需要の伸びに伴う価格の高騰により奥尻町においても着業者が増え、水揚げ・生産額とも増加した一方、資源が減少したため、現在は漁獲制限等を実施し限られた資源と共存しつつナマコ漁を行っている現状となっています。 漁協や町では資源増殖技術の確立のため、他の補助事業等を活用し種苗生産や育成試験等を実施していますが、安定した種苗生産や明確な育成技術の確立には至っていない状況にあります。 このような現状を踏まえ、漁業集落では漁協が推進している「海中での中間育成技術の確立」に同調し“中間礁”を設置しました。 	奥尻港湾内の試験区へ 中間礁 40基設置	今回設置した中間礁は別事業で整備した保育礁に併設し、海中におけるナマコ種苗の育成場としての効果を期待し設置しました。 事業効果としては今後の追跡調査の結果等を踏まえ検証することとなります。 また、今後の種苗生産技術の発展に伴い漁場環境の整備は不可欠となるため、今回の取組は海中での育成技術の確立に向けた新たな取組の一つとして期待しています。（9～11月実施）	